

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

第3回 驚くべきハングルの謎

後藤滋樹 (goto@ntt-20.ntt.jp)
日本電信電話株式会社
ソフトウェア研究所

アジア太平洋地域におけるインターネットの調整を行う APNG (Asia Pacific Networking Group) という委員会がある。この APNG の議長は韓国の Kilnam Chon 教授である。彼は KAIST という研究機関に所属しているのだが、彼の名刺を見たときにちょっと驚いたことがある。

【ハングルはカナのようなものか、それとも漢字か】

彼の名刺に記載されていた4文字は「電算学科」と同じだといふ。ちょっと待ってくださいよ。どう見てもハングルの4文字の方が日本語の漢字表記よりも簡単に見える。ハングルというのはカナのようなものかと思っていたが、漢字と等価なのか。KAIST というのも漢字では「韓国科学技術院」これもハングルで書いた方が画数が少ない。

しかし漢字とハングルが等価だとは信じられない。もしそうならば私たちが漢字の学習に費やしてきた時間はどうなるのだ。いやいや日本人も相当に工夫する民族だ。漢字だって無駄にできているはずがない。いずれにしてもハングルの少し調べてみる必要がありそうだ。

【子音の字形は発音するときの口の形】

ハングル文字は「子音 + 母音」または「子音 + 母音 + 子音」の組み合わせで構成されている。ここでは、家具、都市、無理、新聞、温度、の各単語をハングルで表記したものを分解してみる。家具の例でいえば最初の文字は「フ」の形がkの子音、「ト」がaの母音でkaと読まれる。次の字の「フ」はkだが単語中では濁音になるためgの発音、最後の「ト」の形はuであるからguとなる。kaでは要素が左右に並ぶが、guの方では上下に重なる点が違う。以下の例も同様で新聞(発音はシンムン)のところは2文字とも「子音 + 母音 + 子音」の構成になっている。最後の例の温の字のoの要素は無音である。

漢字表示とハングル表記

漢字 電算学科
ハングル 전산학과

漢字 韓国科学技術院
ハングル 한국과학기술원

家具 가구 ㄱ(k) ㅏ(a) ㄱ(g) ㅏ(u)
都市 도시 ㅊ(ch) ㅓ(o) ㅓ(s) ㅓ(i)
無理 무리 ㅁ(m) ㅓ(u) ㄹ(r) ㅓ(i)
新聞 신문 ㅓ(s) ㅓ(i) ㅓ(n) ㅁ(m) ㅓ(u) ㅓ(n)
温度 온도 ㅓ(o) ㅓ(o) ㅓ(n) ㅊ(ch) ㅓ(o)

ハングル文字要素のキーボード上の配置

ㅁ ㅊ ㅅ ㅌ ㅍ ㅈ ㅊ ㅌ ㅍ
Q W E R T (シフト) O P

ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ ㅌ ㅍ ㅈ ㅊ ㅌ ㅍ
q w e r t y u i o p

ㅏ ㅓ ㅓ ㅓ ㅓ ㅓ ㅓ ㅓ
a s d f g h j k l

ㅊ ㅅ ㅓ ㅓ ㅓ ㅓ ㅓ ㅓ
z x c v b n m

さて「ト」の字が「家」と等価であるか、というのが私の疑問であった。この問題は辞書を見れば水解する。つまり「ト」の字に対応する漢字は「家」のほかにも多数あるのだった。家の他にも、仮、価、街、可、加、歌、なども同じ字を使う。つまりハングルは漢字の字形と等価ではなく、その読みを表したものである。つまり「ト」を見ても「家」とは限らない。

ところでハングルの子音を表す字形は、その音を発音するときの口蓋や舌の形をなぞったものだという。これは知らなかった。韓国では子供にそうやって教えているのだろうか。

【入力日本語よりも速そうだ】

NTTの研究所のwww.ntt.jpにはラジオ日本の情報を多言語で掲載しているページがある。ハングルでの情報もあるのだが、そのテキストはどのように入力するのだろうか。私たちが使っているのはMuleである。Muleでのハングルの入力法には2揃式と3揃式がある。これはMACやPCの場合も同じようで、実際に多く使われているのは2揃式の方だといふ。

さて2揃式での入力は恐ろしくかなり高速である。ここが推測になっているのは私自身が慣れていないため、私は本文のわずかの例題を書くために相当の時間を費やしている。しかしハングルは日本語とは違って「かな漢字変換」が不要である。ハングルの要素は基本母音が10、基本子音が14しかない。このほかに複合母音が11個、濃音と呼ばれる二重子音のような要素が5あるが、Muleの2揃式では濃音は対応する子音のキーをシフトし、複合母音のうち7個は母音の2回打鍵で済ませる。複合母音の残り4個はOとPのキーにシフトの区別をして割り当てる。このため実際のキーは26(うちシフトが意味をもつもの7)がキーボードに割り当てられている。26というのはちょうどアルファベットと同じ数である。これを順番に打鍵すれば変換辞書を参照することなく入力できる。

最後に一言。筆者がハングルの調べる過程で印象深かったのは「例解新日韓辞典」(韓国民衆書林発行、三省堂発売 ISBN 4-385-60103-8) という辞書である。これは三省堂の「例解新国語辞典(第三版)」という日本の国語辞典を翻訳して作られた日韓辞典なのである。この辞書を見ると、日本語で書かれている情報は、いずれハングルで表現可能なのであるという事実が気がつく。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp